



赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクール 2018 最優秀賞

## 小さな百円玉から繋がる輪

鶴田町立鶴田中学校 3年 成田有沙

『赤い羽根共同募金。』私は、その募金のお知らせが来ると、欠かさず、百円玉を募金箱に入れていました。しかし、お年寄りや困っている人のために使われている事は知っていましたが、実際、私に直接関わりがあることは、知りませんでした。

私の妹は、赤い羽根を集めるのが好きでした。私は、不思議に思い、なぜ好きなのか、聞いたことがありました。すると、妹は、

「募金した証に取っておきたいの。」

と、そう答えました。妹の引き出しに並んで貼られている赤い羽根がふと目に入ってそんなことを思い出しました。同時に、今更ながら、赤い羽根共同募金は、何に使われているのだろうと思いました。父に聞いてみると、社会福祉協議会に助成金としてわたされてお年寄りや困っている人など、助けを必要としている人たちのために使われていることを教えてくれました。私は、衝撃をうけました。なぜなら、私が、社会福祉協議会と、関わりを持っていたからです。

私の祖母は、今年から、社会福祉協議会のお世話になっています。祖母は、足腰が悪く、病院に行く時は、車で行くことが多いのですが、父と母は、仕事が忙しく、なかなか都合が付きません。そんな時、祖母は、社会福祉協議会の方に、病院へ、車で送ってもらっています。母と父は、とても助かると言っていました。

また、私は、吹奏楽部に所属しています。私たちは、今年、社会福祉協議会の方に誘われ、特別養護老人ホームの夏祭りに参加させていただきました。ドラムを演奏しながら指揮者の先生に目をやると、その向こう側に、手拍子をしているお年寄りのかたが目に入りました。私たちのつたない演奏とても喜んでくれてくれたお年寄りのかたの笑顔を今でも覚えています。

このように、私たちや、私たちの周りでも、赤い羽根共同募金が使われているのだと思います。私が募金した、たった1枚の百円玉が、社会福祉協議会へと繋がり、私の祖母の病院への送り迎えや、私たちが演奏する機会をつくっていただいたりなど、私たちに繋がり、ひとつの輪になっているのだなと思いました。

私もいずれ年をとったりして、お世話になることがあると思います。そう思うとたった1枚の百円玉でも、募金を続けることによって、小さな小さな繋がり、大きな大きな繋がり、輪にしていきたいと思います。そして、赤い羽根共同募金の赤い羽根が、たくさんの人のもとへ幸せを運んでくれることを願って、私も赤い羽根共同募金に協力し続けていきたいと思います。